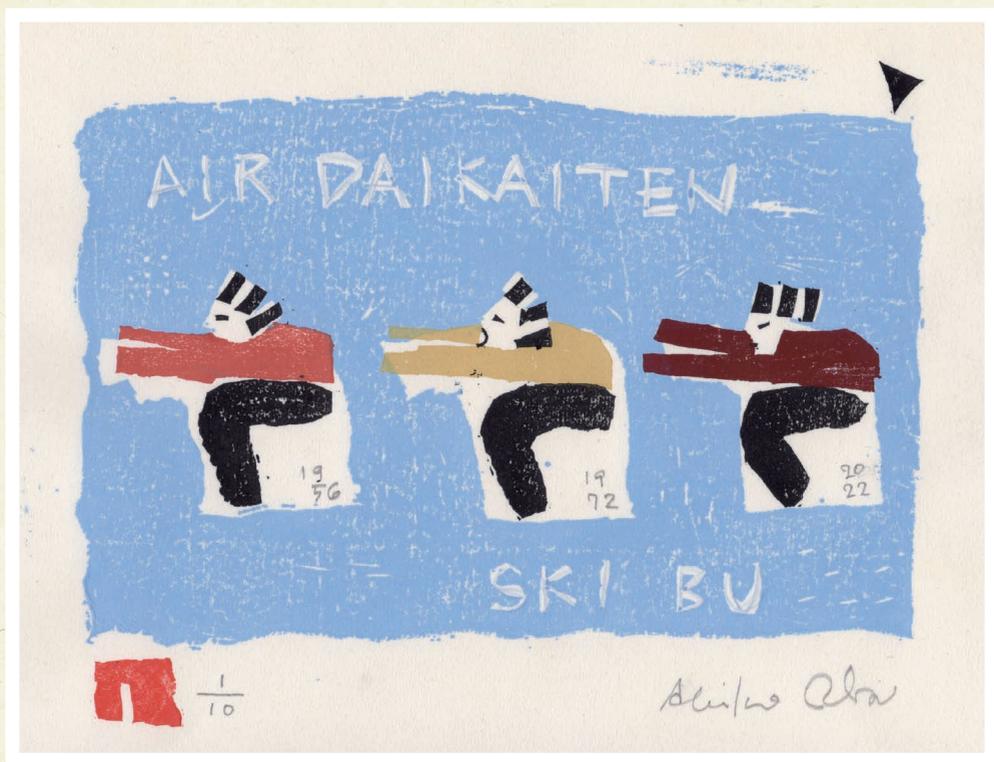


六葉会 会報

2022年
4月号



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>

表紙を飾る版画家

大庭明子さん

(23 回生)



2011年度以来六葉会の会報の表紙を提供していただいている版画家の23回生の大庭明子さんです。毎回この会報のために作品を創ってくださっています。今年も表紙を素敵な作品で飾っていただきました。

題名： AIR DAIKAITEN
サイズ： 15.5×15.9(cm)
手法： 木版画
制作年： 2022年

コメント：

実はスキー部でした。同級生のMちゃんに誘われて。目的は美しく滑れるようになること。スキー合宿以外は基礎体力づくりなど陸上トレーニング。ところが予想外の展開。なんと大回転、回転競技の真似をあの旧校舎の中庭の芝生でやるのです。部員は数人。もしや、と不吉な予感的中。ゲレンデスキー部ではなく競技スキー部でした。スキー合宿では絶壁のようなゲレンデに連れて行かれ「滑れ」とことまげに……もちろんただちに歩いて(!)ゲレンデ脇を下り部外のスクール初級に編入。今もあのエア大回転が懐かしいです。

大庭明子 (おおば あきこ)

1956年 逗子市生まれ。東京造形大学絵画科版画研究室にて馬場栲男氏に師事、卒業。神奈川県美術展、日本版画協会展などで受賞。イビザグラフィック展('84)、ビトラ国際版画トリエンナーレ('94)、他に出品。文化庁芸術家国内研修員('85)を経、各地で個展開催。主な挿絵に山北宣久著『福音と笑いこれぞ福笑い』(教文館)、林あまり著『光を感じる時』(教文館)、絵本に中川ひろたか・大友剛著『ことばのくにのマジックショー』(アリス館)、荻田澄子著『にくまん どっち?』(アリス館)など。<http://www.obaakiko.com>

C O N T E N T S

大庭さんプロフィール・

作品紹介・略歴……………	表紙2
会長挨拶……………	1
校長先生挨拶……………	2
島根前会長を偲んで……………	4
コロナ禍での生徒の取り組み……………	6
クラブ活動レポート・	
女子ラグビー部全国大会優勝……………	8
クラブ活動レポート・吹奏楽部……………	12
同期会レポート……………	14
令和3年度親睦ゴルフ大会報告……………	15
令和4年度親睦ゴルフ大会のお知らせ……………	16
総会中止のお知らせ……………	17
67回生学年幹事……………	17
生徒募集……………	裏表紙

会長あいさつ

会長挨拶では、隔年で副会長の挨拶をお届けしています。今年も、26回生の萩原孝副会長の挨拶です。



六葉会副会長 萩原 孝(26回生)

六葉会会員の皆様こんにちは。会員の皆様には日ごろより同窓会の活動にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。2020年の4月より副会長に就任いたしました26回生の萩原孝と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

六葉会は、今年卒業の第70回生179名を新たな仲間に向かえ14000人を超える組織となりました。新会員の皆様心より歓迎いたします。これからは卒業生として若い力を発揮していただき、共に母校の発展のため積極的に関わっていただくことを楽しみにしております。

さて2年余りに渡る新型コロナウイルス感染症で、会員の皆様の生活も様々に大きな変化をしていることと思えますが、六葉会もコロナ禍の影響で、これまでのように母校を借りして会議や総会、六浦祭の参加などができなくなり、母校を訪問する機会がなかったこの2年間はとてもさみしい思いをしました。

そんな中でも教職員の皆様は、生徒たちができることを模索し、コロナ禍に対応し頑張っている様子を聴き、とても頼もしく感じました。

六葉会も変化に対応し、役員の会議や打ち合わせをリモートで行って

来ました。本来であればたくさんの方の皆様に会える機会も書面での対応とさせて頂いていただきました。人が集まって行われるときの楽しみや喜びを体験する機会がなかったことはとても残念ですが、リモートや書面での対応してきたことで新たな気付きや発見もあったのではないのでしょうか。私なども苦手だと感じていたりリモートでの対応が今では日常の中で当たり前になっています。このように禍ではありますが、たくさんの方の気付きを得るためだと捉え前向きに進んでいくことが大切なんだと思います。

これからの未来がどう変わっていくのか、それは私たち次第だということです。六葉会もこの先、母校発展のために何ができるのか、皆さんと一緒に考え、新しい時代に向けて取り組んでいきたいと思えます。引き続きご支援のほど、よろしくお願いたします。最後になりますが、皆様の平穏で豊かな日々をお祈り申し上げます。

10年後、20年後を見つめた教育

関東学院六浦中学校・高等学校

校長 黒畑 勝男



コロナ禍で日本は、行政の業態や制度などのソフトインフラの課題が明確になりました。感じていた不便さが強く意識されるようになり、また、変化による様々な面倒を嫌って放置してきたことも海外との比較で、遅れや弊害があぶり出されてきました。学校のICT化はその典型です。AIの進化、ICTの浸透、IoTの拡大。事務作業にRPA (Robotic Process Automation)、PCでの業務もロボット化が進んでいます。疑問視された仮想商店街の登場は20年前。今やECは物流や生活の風景も変える勢いです。ノーマル (normal) が過去になりつつあります。近隣国は10年以上?も前から現金が露店でも使えない社会となっている。日本は科学技術立国ですが、新旧制度交錯国の典型です。改革は急がれるはずで

2014年、関東学院入職で六浦中・高へ着任時、教育は「温故知新」ではなく「温故創新」で実践したいと申し上げました。時代の変化を捉えて改革は未来を見据え、新しい教育を目指してきました。お陰をもちまして六浦中・高は英語教育で躍進し、様々な場面で生徒の活躍が見ら

れるようになりました。また、ICT化では神奈川県下でも有数の先進校となりました。生徒たちは個人のChromebookを日々活用しています。GoogleのClassroomは通常の対面授業でも積極的に活用されています。コロナ禍では双方向*on-lineアクティブ型の授業は標準で、出席は教室か自宅かというハイブリッドな環境も用意しました。Google社からICT教育実践校としての認証もいただきました。

しかし、ICT化の目的は、教科書とノート・鉛筆をパソコンに換えるという表面的なことではなく学びの深化で、学びの個別最適化と主体的学習への変化です。調べる、集める、比較分析する、共有する、まとめる、発信する、意見をもらう…。これらが合理的に一つの場所です。21年度はコロナ禍で中1生は横浜現地学習が行えず、学年が30グループに分かれ個別のテーマで金沢区の街を調べるとい活動にしました。企業や施設、区役所などを事前の調査活動の上でon-line訪問しました。生徒は自宅、学校と訪問先、三者間でon-lineでの探究活動でし

た。将来的な学びや仕事のあり方の体験にもなりました。ICT化にはもう一つ、変化する大学入試への対応があります。

大学入試は大きく変わりました。共通テストの内容と入学区分の変化です。AO入試が「総合型選抜」となり、学力と大学での学びの計画性や展望がアカデミックに診断される試験になってきています。また、指定校推薦では「落ちる」推薦入試も増えました。入学区分の定員割合も変化しています。国公私立を合わせて、指定校と総合型選抜の定員が全入学定員数の約半数となりました。一般選抜（筆記学力入試）が半数と変わったわけです。さらに、一般選抜でも英語力を高く評価する入試や出題問題が科目を越えて英文という入試も現れています。これらは、定型的な学びの中の学力観で選抜する方法だけに依らず、中・高で主体的な学び方を経験し明確な目標で学びを考えている生徒を選抜する、という考え方への変化です。幅広い基礎的な教養と基礎学力は必須、主体性があり、実社会で求められる探究心や協働性を有し、Intorepreneur（イ

ントレプレナー）の素質を培われてきた生徒を求める、という変化です。学びの変化が必要なのです。

翻って校訓を思うとき、「人になれ 奉仕せよ」は隣人愛と社会貢献、その志の立つところの固さです。変化する大学入試の中で求められていく人物像に太く通じる精神です。校訓をあらためて覚え、この8年間の教育実践をさらに「温故創新」の姿勢で進めていきたいと考えます。

日本の人口は減り続けます。2021年の出生数は84万3千人、6年連続で最低数を更新しました。現在の22歳人口は117万8千人、21年生まれの22歳人口は71.6%です。社会の風景はどうなっているのでしょうか。今の経済状態を維持するには内需だけでは不足で、海外での活動がさらに必要でしょう。10、20年後を見つめ学びの視野を広げるとい

うことを掲げてきた8年間でしたが、「グローバル化」という言葉も間もなく死語のレベルになるでしょう。国内外での社会のフラット化やボーダーレス化が加速、ICTやAIの発達と浸透……生活の new-normal^{*}は、これまでの世代が経験

しなかつた変化の中に生じます。そこに生きるのが生徒たちです。教育の照準はそこにあるわけです。

教育は変わらなければなりません。六浦中・高は今年も前進します。お陰様で中学は10年ぶりに2000名台での入学手続きをいただきました。高校入学も67名となりました。大きな期待に応える教育を実践したいと思えます。

最後になりましたが、皆様からお寄せいただきました、創部7年目で全国制覇を果たしました女子ラグビー部へのご支援に、心より感謝を申し上げます。

*用語解説

- ICT：情報通信技術
- AI：人工知能
- IoT：モノのインターネット
- RPA (Robotic Process Automation)：認知技術を活用する取り組み
- EC：インターネットを利用した小売ビジネス
- ノーマル (normal)：標準的
- Chromebook：クラウドを搭載したコンピュータ
- Google Classroom：学習用アプリ
- Online アクティブ型の授業：オンラインでも安心して受けられる授業
- ハイブリッドな環境：オンライン授業と対面授業の併用
- Intorepreneur (イントレプレナー)：社内起業家
- new-normal：新しい常識

「島根正隆前会長への追悼メッセージ」



卒業アルバムより

に関東学院六浦中学へ入学、同高校を経て、関東学院大学工学部土木工学科を卒業し、川崎市役所へ入庁されました。在学中は、茶道部とバレーボール部で活躍され、文武両

去る2022年3月11日、島根正隆六葉会前会長が天に召されました。生前、六葉会に対し賜った沢山のご奉仕に対し、真心からの感謝を捧げると共に心からご冥福をお祈り申し上げます。

島根前会長は、1942年9月8日、横浜にお生まれになり、1947年4月



道、人望厚く、学年の中心的存在でありました。

六葉会の活動も設立当時からご奉仕くださり、2008年副会長、2012年から会長職を歴任頂き、若手役員が提案する新しい企画も「やってみれば良いよ」といつも応援して下さいました。「人になれ 奉仕せよ」の校訓を背中で教えて下さった最も素敵な先輩です。

沢山の皆様から追悼のメッセージを賜りたいところですが、編集の期限があり、六葉会三役の皆さんと親しくお付き合いのあった三人、そして校長先生からの一言メッセージを掲載させて頂きます。

島根さん！ありがとうございます！心からご冥福をお祈り申し上げます。

六葉会 会長 高橋 浩司

関東学院六浦中学・高等学校 校長

黒畑 勝男

島根正隆様。3月11日に神様に召されたとの報に接し、いつも明るい笑顔を思い出しつつ悲しみと寂しさを噛みしめています。こども園、六小、六中・高、学院の発展への献身的なお働きに心から敬意を表し、厚く御礼を申し上げます。ご家族の皆様

の悲しみに神様の慰めがあります。在主。

「大根 島根」 中市眞佐子（4回生）

十数年前の夜の常任幹事会の折「大根好きか」と言われ、大好きと言った数日後、玄関ドアの前に直径10センチ位の大きな大根と小ぶりの大根が新聞紙にくるまれ「大根 島根」とマジックで署名が。新鮮で甘い大根を、ブリ大根・おでん・ふるふきとして堪能しました。以来大根の季節には朝早く新聞紙にくるまれ、みずみずしい大根が置かれました。病氣と縁のない体型でスタスタ歩いていた島根さんが病魔に襲われたなんて想像もしていなかったので連絡をいただき驚きました。元氣だった働き者の島根さんは天国でも電動ノコ持って走り回っている姿が目に見えます。心からご冥福をお祈りいたします。

西岡 義 榮（14回生）

長い歳月があった。会長になられて、まとも役をみずから役割され、苦勞された。同窓会は主体制のない会。お互い尊重して運営するには感情的なものを押さえて、やっと完成する。島根さんほど同窓会を頑張ってやっていただけた先輩はいない。感謝しきれない。ありがとうございます。

ございます。島根さんのような先輩はもう会えないだろう。御冥福をお祈りします。

島根先輩の想い出 岡 正郎(14回生)

島根さんにお会いしたのは、大学の同窓会幹事として一緒に過ごした45年程も昔の事。中高、大学と同窓会活動を通じて接した献身的な姿勢に改めて感謝。校訓「人になれ 奉仕せよ」を文字通り実践された間違いない人。いつも絶やさぬやさしい笑顔を想い出します。ご冥福をお祈り申し上げます。

蒲谷 茂(19回生)

島根会長時代の副会長として、永い間ご指導を頂きました。いつも笑顔で優しい方と言うのが私の一番の印象です。関東学院同窓会(通称合同)の帰りには、三春台から私の車で一緒に帰り、その車中で学院の昔話や各同窓会とのかかわりの話をたくさん伺った事も、今は良き思い出です。島根さんありがとうございます。心よりご冥福をお祈りいたします。

「島根会長の想い出」

野澤 一良(20回生)

「よお野澤君、野菜持ってきたよ」玄関先に沢山のキャベツや大根を持ってきた

てサッサと置くと「じゃあね」と走り去っていく島根先輩。二人の娘や孫たちまでお世話になった数少ない先輩です。いつも言葉少なくニコニコしていた笑顔が忘れられません。

萩原 孝(26回生)

島根前会長は私がまだ母校を知らない頃にはすでに同窓会の中心となっておられたと聞いております。六葉会の会長職も長年引き受けてくださり多くのことを教えていただきました。ご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

千葉 敏雄(30回生)

島根会長時代の出会いは、2013年で勤務していた関東学院募金・校友課でのことです。島根さんがボランティアで、六浦こども園の園庭でお芋や野菜を育てられていて、収穫後に焼き芋大会を行い、私も交友課の一員としてお手伝いをさせて頂きました。園児からは「野菜のおじいちゃん」と呼ばれていて、笑顔で子供達に接していたのを想い出します。六葉会だけでなく関東学院各校にも支援をいただき感謝いたします。島根さんのご冥福を心からお祈りいたします。

高石 智一(43回生)

六葉会の繋がりでだけでなく、六浦中高の鉄道研究部でも大変お世話になりました。鉄道研究部による校外のイベントのための機材運搬を担って頂き、また神奈川県公園協会様からの感謝状を頂いた際にも大変ご尽力いただきました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

芹田 祐一(44回生)

島根前会長の訃報に接し、大変驚いております。いつまでもお元気で長生きしてくださいと思っておりましたので、残念でなりません。生前は幹事会の際に、時折大きな大根やスイカなどの自家製の野菜を頂戴し、美味しく頂いたことを今でも懐かしく思い出となっております。心よりご冥福をお祈りいたします。

島根さんありがとうございます。

門脇(野澤)美有紀(49回生)

六浦こども園で親子共にお世話になりました。お祭・畑活動・焼き芋など年間通して本当にたくさん園児のため素敵な時間を作ってくださいました。入園式、卒園式での優しい笑顔やトレードマークの緑法被は、私たち家族の心に刻まれています。本当にありがとうございます。

コロナ禍に おける 生徒の活動

三年目を迎えるコロナ禍、生徒を取り巻く学校生活はどのように変わったのか、中村新先生（高校教頭）、中村優子先生（中学教頭）のお二人にお願いし、最近の取り組み状況や生徒達の様子を投稿して頂きました。



六葉会の皆様には、日頃より本校の教育活動にご協力を賜り、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

2021年度は、コロナ禍における新しい生活様式（ニューノーマル）が求められることになりましたが、学校生活においても社会情勢と同じく感染症対策に翻弄されながら生徒達の安心安全を最優先にして進めているところ です。

1. 新しい学びの形 オンライン授業

今や当たり前になったオンライン授業は基本的にライブで行うが、学校の教室で黒板をiPadで映し授業するもの。教員が作製したパワーポイントを画面上に映し出し授業を進めるもの。授業の冒頭に課題を指示・配信し、それに取り組みものの大きく3種類である。

2020年2月、全学校に対して登校禁止が発令された直後、「学びを止めるな」をモットーに、教員たちが知恵や技能を出し合い、既に導入されていたICT機器を最大限活用することを考えた。

2020年5月より生徒は在宅の中、短縮版のオンライン授業を開始、朝の礼拝（HR）から5時間目までを実現した。実施上のルールを整え、所在の確認方法確立、画面を見続けることによる疲労に配慮するなど工夫を凝らした。同年6月から密を回避しながら半数登校を開始。それから現在までは社会情勢を見ながら、全員自宅、学年別登校、登校・在宅の自由選択に対応する授業と様々な方式をとっている。

入試形態の変容に伴う学び方の変化

2008年福田内閣により「留学生30万人計画」が打ち出された。また、インターネット回線の急速な普及、更に昨今のコロナ禍によって働き方も大きく変容した。

日本の教育で育った子どもは諸外国と比べて、主体性をもってプランニングすることや



協働作業が苦手であると揶揄される中、国内でも求められる学力観が変容し、従来の知識・技能型の学力（IIナレッジ）に加え、思考力・判断力・表現力（IIインテリジェンス）と学びに向かう力・主体性（IIマインド）も求められている。それに伴い、大学進学の入試形態にも大きな変化が起こり、大学進学約半数を学校推薦型・総合選抜型が占め、文献やネットの情報正しく整理し、自身が選んだテーマに沿ってどのような学びをしたか（探究力）が問われるようになった。

教育界も社会の変容と等しく加速度的に変化する中、ICTを駆使した授業を前提に、世界から後れを取っているプログラミングについて学びの体系づくりをしていくことが急務となっている。

本校も、時代のニーズを肌で感じ変化を恐れないマインドを抱きつつ、DX化というニューフロンティアへの開拓精神とグローバルな視野をもって活躍できる人材を育てるべく奮闘している。

2. 生徒の活動の軌跡 オンライン六浦祭

長い歴史の中で六浦祭の中止は記録にないが、パンデミック下にあつて「2020年度の中止はやむなし」の判断であつた。2021年度開始にあたり、生徒会の「何としても六浦祭をやりたい」という強い思いから何度も話し合いを重ね、第5波（デルタ株）の不安が残る中「オンライン六浦祭」という数年前なら誰も想像しなかつた方法を決断、正にVUCAな時代に求められる力OODAをもつて成し遂げた。準備期間に楽しそうに活動する生徒の笑顔が印象的だつた。



*1 DX化
・デジタルトランスフォーメーション（デジタルによる変容）

*2 VUCA
・Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）

*3 OODA
・Observe（現状の観察）・Orient（状況理解・判断）・Decide（意思決定）・Act（実行）

学校パーカーの実現

2020年度六浦祭中止をきっかけに、生徒達から「私たちの時代に何か証を残したい」と、生徒会主導でパーカーを作るという意見が上がつた。昨年の秋から意見を募り、色やデザインは勿論のこと、着用時のルールも生徒達が作り上げた。当初は「あまり売れないのではないか」と懸念する声もあつたが、予想を上回り多くの生徒がパーカーを愛用し、自分たちで作つたルールに則つて生活している。

3. 進学に向けて

イギリス、アメリカ、台湾、マレーシアなど海外進学を志す生徒が増えてきている一方、お茶の水女子大学や九州大学、横浜市立大学などの国公立大学、有名私立大学などに、総合型選抜入試をはじめ新しいシステムによつて合格を勝ち取る生徒が増えてきている。

基礎学力の定着を図りつつ、個々人の興味関心や探究心を掘り下げることで生徒の可能

性を引き出したり、生徒自身の将来設計に寄り添う進路指導に注力している。

4 その中で変わらないもの、変えてはいけないもの

教員・生徒間での繋がりと直接会うことの重要性

2016年よりICT化を進めていた結果、パンデミック下においても慌てることなくオンライン授業に移行、継続的に展開しているが、その一方で、心身共に成長する中高生期に学校生活で経験する「価値観の違い」や協働することで学ぶ多くの「気づき」、集団の中で得られる「必要とされる喜び」などの体験不足が懸念されている。安全・安心を第一に考えつつ登校する日が増えるよう、ハイブリッド（登校と在宅併用型）での学びを提供し、人と人との繋がりを大切に運営している。

互いに教えあい、学びあうことの重要性

「人になれ奉仕せよ」の校訓に込められた想いの実践と卒業生との関わり

卒業生がよく来校するのが関東六浦の良い点である。コロナ禍にあつてはその数は激減しているが、学校を懐かしみ、何年経っても卒業生が会いに来てくれる。それだけでなく、六浦祭やかつて活動した部の状況を見て、支援してくれる卒業生もいる。これこそ「六浦イズム」が根付いている証だと考える。

クラブ活動 紹介

2021年10月23日(土)、24日(日)の2日間、熊谷スポーツ文化公園ラグビー場(埼玉県熊谷市)にて、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会主催の「第4回全国U18女子セブンズラグビーフットボール大会」が行われ、母校女子ラグビー部が初の全国制覇を果たしました。その栄光の軌跡を女子ラグビー部顧問の梅原洗先生にレポートして頂きました。因みに六葉会からは、その栄誉を称え、クラブの活動資金を支援させて頂きました。

女子ラグビー部

全 国 優 勝

大会には、日本全国から各地域の代表として16チームが集まり、熱戦を繰り広げました。本校は初日に行われた予選プールを1位で通過し、2日目の決勝トーナメントへ進出しました。2日目に行われた決勝トーナメント準決勝の相手は、今夏菅平高原で行われたオッペンカップの決勝で対戦した九州地区代表の佐賀県

【予選プール】

本校 12-0 鳴門渦潮高等学校

本校 43-0 福岡レディースラグビーフットボールクラブ

【決勝トーナメント】

準決勝 本校 17-12 佐賀工業高等学校

決 勝 本校 17-7 石見智翠館高等学校

【大会MVP】

向來 桜子 (関東学院六浦高等学校)



立佐賀工業高等学校でした。先制される展開となりましたが、落ち着いたゲーム運びで勝利することが出来、決勝戦へ駒を進めました。
迎えた決勝の相手は、中国地方代表の強豪石見智翠館高等学校でした。本校が先制する展開から一時逆転を

許しますが、激しいタックルで本校の持ち味であるディフェンスを展開し、相手の攻撃を封じました。後半に2つのトライを重ねて突き放すことに成功。見事優勝し、初の全国制覇を果たしました。併せて、本校6年生（高校3年生）の向來桜子さん

大会予選プール2回戦福岡レディース戦
大会を通じてチームを引っ張った6年向來桜子がボールを持つ（大会MVP）
サポートは6年大友はるな



決勝石見智翠館戦 前半
先制トライを決めるエース6年矢崎桜子

が大会MVPを獲得しました。
本校は、第2回大会に初出場し準優勝。第3回大会でも決勝へ進出しましたが、2年連続準優勝という悔しい結果でした。そして3度目の挑戦で、ようやく全国優勝を勝ち取りました。
今後あなたがかいご声援をどうぞよろしく願っています。

大会予選プール福岡レディース戦

タッチ際でボールをもち果敢に
アタックする5年山本侑衣菜



開会式

全国から予選を勝ち抜いた16チームが集結



決勝石見智翠館戦
優勝の瞬間



決勝石見智翠館戦
試合前の円陣

試合後
保護者への優勝
の報告



準決勝ハーフタイム
前半に先制された状況で修正。後半に逆転勝利



表彰式の様子
賞状を授与される
キャプテン6年
松澤ゆりか



表彰式の様子
マイクを挟んで左が向來桜子 右が寺谷芽生 一番右が大友はるな
一番左が松澤ゆりか チームを引っ張った最高学年

吹奏楽部

今回のクラブ紹介は、吹奏楽部です。コロナ禍でクラブ活動が困難な中、関東大会出場を目指し努力を続ける生徒の様子を顧問の深野基先生にご紹介頂きました。

「おはようございます！」「こんにちは！」部員たちの元気な声が響く吹奏楽部の部室は、本校4号館の2階にあります。一般教室よりも大きく、天井の高い明るい部屋です。部員数は現在32名で、中高6学年で活動しています。部員たちは授業を終えると部室に集合し、まずは基礎合奏という、バンドの合奏力を高める基礎練習から始めます。音階（スケール）練習・バランス練習・ハーモニー練習・リズム練習等があり、その都度必要な基礎力を養っていきます。特に吹奏楽は息を使って音を出す楽器がほとんどですので、息の使い方に細心の注意を払います。基礎合奏が終わると今度は曲合奏です。

控えている本番の曲を合わせ、整えていきます。目によつては曲合奏をせずに、個人練習・パート練習・セッション練習等を実施する日もあり、様々な単位での練習で技術の向上をしています。また、吹奏楽部はすべての楽器に、プロ奏者の先生がつきレクソンをして頂いておりますので、各楽器の正しい奏法が身につき、上達が早くなります。

吹奏楽の特徴は、管楽器が主体であるということです。よく吹奏楽と対比されるオーケストラは、ヴァイオリンなどの弦楽器が主体ですが、吹奏楽は木管楽器と金管楽器が圧倒的多数です。吹奏楽で使用する楽器の種類は大きく分けて12種類あり、さらに細分化していくと20種類を超えます。部員は入部してすぐに自分の楽器が決まり、中学1年生から卒業する高校3年生までの6年間、じつくりとその楽器を演奏することができます。よくいただく質問の中に、楽器は買わないと活動できないのですか？とありますが、吹奏楽



部で所有している楽器がありますので、その楽器を貸与する形で活動が可能です。所有楽器の中には、六葉会会員の皆様が現役生だったころに使用していた楽器も数多くあります。吹奏楽部の年間の活動は多岐にわたります。その中でも一番規模が大きいものが定期演奏会です。これは吹奏楽の演奏を存分に楽しんでいただけるもので、毎年3月に学外のホールで開催しています。ここ数年は神奈川県立音楽堂、横須賀市文化会館、金沢公会堂、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット等で開催しました。そして、吹奏楽の魅力的な行事の一



つが夏の吹奏楽コンクールです。高校野球になぞらえて、吹奏楽の甲子園と呼ばれるものです。本校は高等学校B部門という小編成部門に中学生も共に参加しています。大編成部門であるA部門もありますが、横浜市内の多くの高校はB部門に出場するため、横浜市のB部門は

とてもレベルの高い大会です。お陰様でここ数年は横浜地区大会を金賞で通過し、神奈川県大会に出場しています。神奈川県大会では銀賞が続いており、東関東大会への出場が一つの大きな目標となっています。2017年に東関東大会に出場し銀賞をいただいたことは、大きな喜びでした。この夏も東関東大会への出場を目指し、熱い夏が始まります。

私が部活運営で一番大切にしていることは、部員一人一人が、楽器って楽しいな！吹奏楽って楽しいな！と感じ、卒業してからも音楽をずっと好きでいて欲しいということです。中学高校で出会った吹奏楽という音楽の一つのジャンルを通して、もともと音楽を好きになって、楽しい音楽の世界にハマって欲しいと願っています。

さて、2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休校になったり、オンライン授業になったりと部活動ができる時間が従来の半分以下に減ってしま

いました。また予定していた演奏会やコンクールも全て中止となりました。更にソーシャルディスタンスにより、活動が出来たとしても今までの練習でもなかったことを気にしている練習で、ストレスの多い苦しい日々が続きました。しかし、さすがは中高生です。この現状を嘆くだけでなく、自然と順応していつているのです。そのお陰で、制約が多い中でも少しずつコロナ前の吹奏楽部を取り戻しつつあります。今後コロナに負けずに突き進んでいきたいと思えます。

吹奏楽部ではホームページや各種SNSで情報を発信していますので、ぜひ、ホームページにアクセス頂き、各種SNSのフォローをお願い致します。そしてぜひ演奏会にいらして下さい。ご一緒に吹奏楽の響きを楽しんでいただければ生徒達の励みになりますので宜しくお願い致します。

公式HP





2021年度

同期会レポート



毎年恒例（イベントを含む）の同期会やクラス会が開催され、多くの報告がされておりますが、2020年に社会現象となったコロナ禍に伴い、今年度も同窓会開催の報告が1件となりました。

今年度もコロナ禍に伴い開催を見送る状況ではありますが、今後、六葉会に連絡を頂いた同窓会やクラス会を会報に掲載させていただきます。早くコロナ禍が終息されることをお祈り致します。

六葉会では、通信費の補助金を差し上げる制度を行っております。同窓会開催に対して住所録の用意等も含めていろいろなサポートをさせていただいております。

成人式の年、還暦の記念、周年の記念等、様々な年齢で行われているようです。手違いを防ぐために、六葉会への連絡はお手数ですがメールでお願いしております。

- 開催日時
- お見えになった先生方のお名前
- 集合写真（会報に載る時にはモノクロで縮小しますので個人が特定される可能性は小さいです）
- 開催場所
- お集まりになった人数

こちらにご連絡ください。info@rokuyoukai.com

第68回同期会 日時：2022年1月10日(月)

感染症の被害が懸念される中での同窓会でしたが、長塚先生、木村先生、三川先生、横山先生も含め100人弱の方が出席してくださいました。このようなご時世で、県からも会食を控えるようにと指摘があったにも関わらず、強行したことは反省点として挙げられますが、多くの方から楽しかった、また集まりたいなどのお声を頂き、幹事一同大変嬉しく感じました。ご協力くださった六葉会担当者様にもこの場をお借りして感謝申し上げます。今後も機会があれば同窓会を開催したいと考えております。多くの友人や先生方とマスクを着用せずに会えることを心より願っております。(68回生幹事)

2022年1月10日成人式にロイヤルホールヨコハマにおいて、第68回生の成人式を記念する同期会が開催されました。冒頭に記載したコロナ禍による同窓会等の自粛が多くある中、今回の幹事をされたクラス代表の方々は、1年前から企画をされコロナ禍が収まりつつある2021年12月に開催を決定しました。12月末からオミクロン株が拡大しましたが、一生に一度の成人式においてこの企画を楽しみにされている卒業生を責める事は出来ません。同窓会は感染対策を十分にされた開催である報告もありました。同窓会の皆様には、今回開催についてご理解をいただき、暖かい声援を送っていただく事を願い会報に掲載をさせていただきました。(会報担当：幹事長)



2021年11月17日開催

関東学院六浦中学校・高等学校卒業生 親睦ゴルフ第16回大会

毎年恒例となった卒業生親睦ゴルフ大会が今年も新型コロナウイルス感染症の中、感染予防に対策を講じ参加者の協力により開催することができました。

今年は集合時間を45分ずらして2班に分けて集合していただき、朝礼後集合写真を撮ることができパーティー・表彰式は行わず参加いただく方々には楽しんでいただけるよう趣向を凝らし昨年より20名増え20歳代から80歳代の卒業生76名が参加されました。

参加者代表として男子優勝者の石塚 勝久さんに一言いただきました。

尚、今年の六浦卒業生親睦ゴルフ大会は令和4年9月1日(木) 磯子カンツリークラブにて開催予定です。

男子
優勝者

男子優勝者 石塚 勝久さん(31回生)

このコンペとの相性が良いのか、実力以上の成績が出ます。卒業生と過ごす、楽しい時間のおかげだと思います。楽しいコンペです。参加した事のない方、是非参加してみてください。



1組～5組集合写真



6組～10組集合写真

2022年度六葉会総会 中止のお知らせ

2020年度より継続している新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立っていない状況です。そのため総会を開催するのは、リスクが高いと判断し、今年度も中止と決定させて頂きました。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

六葉会70回生学年幹事の紹介

1組	小笠原海音	・	東	由太
2組	安間 彩乃	・	山崎	志乃
3組	赤羽 剛	・	沼田	鈴乃
4組	井手 隼	・	洲崎	啓汰
5組	北原 愛花	・	渡邊	悠斗

クラス会や同窓会の開催の際にご連絡ください。
六葉会ホームページからアクセスできます。

※最新の住所録をご用意します。

※通信費の補助金を差上げます。

※卒業アルバムのデジタルデータもありますのでご活用下さい。



「人になれ奉仕せよ」

「人になれ 奉仕せよ」とは、1919年の中学関東学院第1回入学式において、初代学院長 坂田 祐が提唱したキリスト教に基づく本学院の教育理念を端的に言い表したものです。

「私は式辞にキリスト教の精神を高調して建学の精神とし、これを具体的に表現するために『人になれ』と力説した。これは私が祈って、上から示された言葉であった。次に述べたことは、『奉仕せよ』であった。人のために、社会のために、国のために、人類のために尽くすことである、と力説した。爾来、キリスト教の精神をもって本学院建学の精神とし、これを具体的に表現するために『人になれ』『奉仕せよ』の2つの言葉を校訓として、機会あるごとに、これを強調して、今日に至ったのである。」

人になれ
奉仕せよ
その土台は
イエス・キリスト也
坂田 祐

この素晴らしい校訓のもと、あなたのお子さん、お孫さんを是非、母校に学ばせて下さい。お問い合わせをお待ちしております。

関東学院六浦中学・高等学校

所在地：〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東1丁目50-1

電話：045-781-2525